

マライヤ

独立歩兵第四三一大隊部隊略歴

大隊長 伊得秀吉
代理 山田彰三

年月日	概	要
昭一九一三、一〇 自二〇、一、七 至二〇、五、七	編成完結 仏領印度支那交際支那「ビンホア」に位置し同地附近の警備 明号作戦参加	
自二〇、三、九 至二〇、五、七	本作戦間の損耗人員 戦死 二 (下士官「矢一」) 戦傷 五 (下士官「矢四」) 其の他戦病死 下士官「 疾死(自殺) 矢一	
自二〇、五、八 至二〇、六、一五	馬車輸送のため「ビンホア」に警備(南部仏印警備)を引継ぎ輸送 本行動間の損耗人員 戦死 矢一 戦傷死 矢一 戦病死 矢二	
自二〇、六、一六 至二〇、八、一四	馬車「パラレ州」クリレに位置し中部管区(「クリム」)に警備	

(201)

1842

年月日	概	要
自昭二〇、八、一五 至昭二〇、九、一四	同右に位置し附近の治安維持並に終戦処理 本期間に於ける損耗人員 戦死 四 (下士官一 兵三) 戦病死 矢六	要
自二〇、九、一五 至二〇、一〇、一	馬來「パラ」州「ビドル」に終戦に伴う集結 (六六露營地) 本期間に於ける損耗人員 なし	
自二〇、一〇、一 至二〇、一〇、二六	馬來南部「レンパン」島集結のため移動 本行動中に於ける損耗人員 公病死 下士官一	
二、三	馬來南部「レンパン」島上陸 損耗人員 戦病死 矢一	
	歴代部隊長名 陸軍少佐 伊得 季吉	
	部隊事情精通者	

マライ 五一内

埼玉県比企郡平村大字西平六五六ノ二

陸軍火佐

伊得季吉

岡山県倉敷市弄町二九二ノ一

陸軍大尉

花山四郎

(203)

1844

独立混成方七十旅団戦車隊略歴

隊長 陸軍中尉 安田惣一郎

年月日	概
昭一九、一三、〇	仏領印度支那に於て編成完結
自一九、一三、〇 至二〇、三、八	仏領印度支那西貢に位置し南部仏印の警備
自二〇、三、九 至二〇、五、三	明号作戦に参加
四、一七	矢一 戦病死
五、四	馬來戦進の爲行動開始
五、二二	西貢出發
五、一七	仏印、泰回境通過
六、二六	陸軍大尉中林清一独立混成方七十旅団司令部附として發出
六、二六	陸軍中尉安田惣一郎独立混成方七十旅団戦車隊長に補せらる
七、三六	泰、馬來回境通過
七、三一	馬來、パラ州、クアラカンサルに到着
	同日以降同地附近の警備
八、一四	終戦大詔煥發 戦行動停止
九、一四	パラ州、クアラカンサルに出發 パラ州、ビドルレヤ六露營地へ集結、終戦処理

母

(204)

1845

二〇、一〇、一四

英側指示により「ビドル」出発

一〇、一六

「ジヨホール」州「レンガム」着

一一、二四

「レンガム」出発

「レンパン」島後駐屯始

一部は「シンガポール」英側作業隊に編入

一一、二七

主力は「レンパン」島上陸

歴代部隊長名

陸軍大尉 中林 清一

陸軍中尉 安田 惣一郎

部隊事情精通者

福井県福井市月見町二八

陸軍中尉 安田 惣一郎

秋田県雄勝郡秋ノ宮村中島一ニ

陸軍准尉 菊 地 文之丞

福井県今立郡皆野村葛岡三号三

陸軍曹長 塚 崎 栄

(206)

1846

独立混成方七〇旅団砲兵隊部隊略歴

陸軍火佐 早乙女 慶利

年月日	概	要
昭一九、一、三〇 二〇、三、八	部隊編成（於仏印西貢） 仏領印度支那西貢附近警備	
三、九	明号作戦参加	
至自 三、九 三、一	戦斗期間	
至自 三、九 五、三	作戦期間	
三、三	陸軍上等兵 小林 模太 戦病死	
四、五	陸軍伍長 小野 繁寿 戦病死	
五、二	部隊移動（南部マライに転進のため仏印西貢出發）	
七、七	馬來マライ州マタンレンガスに着	
八、二四	同日より同地附近の警備	
八、二五	終戦	
八、二五	陸軍兵長 飯島 勲 戦死	
九、一四	部隊移動（馬來マライ州マタンレンガスに転進のためマタンレンガス出發）	

マライ五二内

六二五	「パタンゴール」州「ビドル」着
一〇三三	陸軍伍長 江野利雄 公傷死
一〇三四	部隊移動（馬來「ジヨホール」州「レンガム」に転進のため「ビドル」出発
一〇三六	馬來「ジヨホール」州「レンガム」着
一〇三三	部隊移動（馬來「レンバン」島に転進のため「レンガム」出発）
一一三七	馬來「レンバン」島着
	部隊事情精通者
	東京都淀橋区十二社 二六六
	陸軍中尉 眞野兵太郎
	山形県東田川郡余目町字沢四七五
	陸軍軍曹 佐藤長助

年月日	
概	<p>昭五、一三、四 一〇、</p> <p>独立混成中七〇旅団工兵隊部隊略歴 編成完結 西貢附近の警備</p>
要	<p>自一九一三、一〇 至二〇、一、五</p> <p>一、号策応作戦参加 損耗 なし</p> <p>陸軍技術伍長浅野新之介旅団司令部に転属 西貢附近の警備</p> <p>陸軍上等兵藤公浅治、立川航空整備学校入校の為転出 大畑積、昭和十九年度徴集兵として入隊 明号作戦参加</p> <p>本作戦に於て陸軍上等兵酒井則男、受傷、南方オニ陸軍病院にて入院 尔後内地遷送（小倉陸軍病院収容月日不明） 陸軍軍曹古野正雄、急性化膿性虫様突起炎兼マラリア（三日熱）に依り南方オ</p>
	<p>自二〇、三、九 至二〇、五、四</p>

独立混成中七〇旅団工兵隊部隊略歴
隊長 吉田一弘

四二三	三陸軍病院に入院 戦病死
至白 二〇、五、 六、四、五	陸軍伍長川岸武夫以下四名、ヲ三十八軍司令部に転属 陸軍上等兵中村太助以下四名、ヲ三十八軍ヲ二十特設自動車隊に転属 陸軍一等兵大谷汝右以下二名ヲ十三野戦航空修理廠に転属 次期作戦準備並に輸送業務 陸軍上等兵木下猛、南方ヲ三陸軍病院入院 尔後消息不明 陸軍兵長中島幣七、馬來転進中、泰國ヲチエンプンレ市ヲチエンプンレに於て 空爆を受け戦死
五、二〇	次期作戦準備並に馬來ヲパラクレ州ヲクアラカンサルレ附近の警備
至白 二〇、六、 八、五	陸軍上等兵益原重治郎、マリアア(三日熱)に依り南方ヲ三陸軍病院特設兵站 病院に入院
七、二六	戦病死
六、八	陸軍技術軍曹名取榮雄、コバンカレ海峡北口東経一〇四度五六分南緯二度の地 点に於て敵潜水艦の砲撃を受け 戦死

年月日	概	要
昭二〇、六、三〇	<p>陸軍技術部長高倉安雄、独立歩兵第四百二十九大隊に転属 陸軍上等兵浦島重藏、加三州船舶送司令部「バンコック」支部に転属 陸軍史料見習士官大沼茂三、以下三名、工兵隊付（内寺島見習士官依病「クアラルン」に転送） 陸軍病院入院着隊せず、不復消息不明</p>	
七、一〇	<p>陸軍兵長石川寅、南方方三陸軍病院特設兵站病院入院、不復「クアラルン」に転送 陸軍病院に転送</p>	
八、一四	<p>陸軍一等兵太林秋右、オ三八軍野戦建築勤務班に転属 終戦</p>	
八、二四	<p>陸軍火尉鯨井禎藏以下三名、工兵隊附 陸軍軍曹島原平八郎、戦傷に依り南方方三陸軍病院特設兵站病院入院 不復「クアラルン」に転送</p>	
一三、四	<p>陸軍火尉今井格郎、以下十二名引継の爲「スंगाイアテイ」に残留 不復「サラクノース」に転送 主力部隊長以下一ニ六名「ペラク」州「ビド」に集結 聯合回創作業に依り、同地出発、「クルアン」検問所を至す 「ミンガホール」に「ケツマル」作業隊に編入 陸軍火尉鯨井禎藏、以下一〇名「レンガム」に於て残留</p>	

マライ五三カ

0431

(2/0)

1851

一三八	本後「クルア」検査所を空て、 ウシガホールレ「リバパレ」作業隊に編入
一三七	陸軍上等兵岩田一雄、病に依り南方オ三陸軍病院特設兵站病院入院、 尔後、戦病死（日時不詳）
一三八	遺骨其の他「レンパン」島、今井火尉保管の筈
一三〇	陸軍兵長田口伝吉、以下一の名
九三	虚弱者として「ケツパル」作業隊より「レンガム」に後送
二四一〇	現在編成表 別紙一 現在人員現況表 別紙一の如し 編成以来部隊人員移動状況
	編成完結時総員 一八三名
	戦死者 一六名
	戦死戦病死者 五名
	転入者 七名
	現在総員 一六九名
	歴代部隊長名 吉田 一 弘
	部隊事情精通者

(211)

1852

年月日	概要
	<p>岐阜県大垣市東外側町二六六 陸軍大尉 吉田一弘</p> <p>愛媛県松山市佃町一 陸軍准尉 佐伯玄美</p> <p>徳島県徳島市助任橋二丁目五番地 陸軍曹長 森 兼夫</p>

5681

(2/2)

1853

独立混成方七〇旅団通信隊部隊略歴

隊長 陸軍中尉 三宅 保

年月日	概	要
昭一九、一、一〇	从領印度支那に於て編成完結	
自一九、一、一〇 至二〇、三、一八	南部从領印度支那西貢に位置し、同地附近の警備通信に任ず	
自二〇、三、九 至二〇、五、三	明号作戦に参加	
五、四	馬來戦進のため行動開始	
五、六	西貢出發	
五、三一	戦進間、幹部候補生一戦病死	
六、七	馬來コパラ州コクアラカンサルに到着	
八、一四	同地附近の警備通信に任ず	
九、一八	終戦大詔煥発、戦行動停止	
二、二八	コパラ州コビドルレカ六露營地に集結	
	終戦処理	
	英側指示によりコビドルレ出發、レンパン島移駐開始	
	主力はコシングホルレ英側作業隊に編成	
	一部はコレンパンレ島上陸	

マシイ 五四内

年月日	概	要
	歴代部隊名 陸軍大尉 三宅 保 部隊事情精通者 岐阜県養老郡一ノ瀬村川東一一七六 福井県福井市尾上下町二三 陸軍大尉 三宅 保 陸軍軍曹 須谷 貞三	

(2/4)

1855

第九十四師団司令部部隊略歴
師団長 井上芳佐

年月日	概要
昭五、一〇、二四 一、一五	軍令陸甲ア一三八号に依り解放下令
昭五、一〇、二七 一、一七	オ十二、オ十八兩被立守備隊を基幹とし、「マライ」半島「タイピン」に於て 解放完結
昭五、一〇、二七 一、一七	泰國「チニン」ポ「附近」に在りて「マライ」半島頸部防備に従事
昭五、一〇、二七 一、一七	英國「バザヤ」及「マライ」ス「イケイ」パ「タニ」に在りて「マライ」半島北部防衛に従事
自一〇、九、三九 至一〇、九、三九	離隊行方不明 准士官一名、下士官一名、兵一名、雇員(台湾出身)二名(詳細別紙の如し)
	歴代部隊長名 人 陸軍中將 四手井綱正 之 陸軍中將 井上芳佐 部隊事情精通者 埼玉県浦和市字大明木 陸軍中佐 富永龜太郎 岡山市南方新町二八八 陸軍大尉 岡本二郎

(2/5)

1856

年月日	
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div data-bbox="1235 822 1276 857" style="writing-mode: vertical-rl;">概</div> <div data-bbox="1005 784 1197 1590"> <p style="writing-mode: vertical-rl;">和歌山県白高郡印南町字印南 陸軍准尉 水 文 四 郎</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">横滨市中区本牧町一丁目三六一 陸軍曹長 木 本 康</p> </div> <div data-bbox="1235 1590 1276 1626" style="writing-mode: vertical-rl;">要</div> </div>

(2/6)

1857

歩兵第二百五十六連隊部隊略歴

連隊長 羽生 善良

年月日	概	要
昭五、二、一五	馬來ヲセラングール州ヲクアラルンフルに於て軍令陸甲オ一三八号に依リ齋成完結	
一、三	不復、馬來警備 馬來地区肅正討伐作戦中ヲセラングール州ヲコタテンギーレ西方六哩ヲカニカルボシクペカンレ附近に於て、矢一戦死	
二〇、一、一三	馬來地区肅正討伐作戦中ヲパハン州ヲバトサワレ附近に於て下士官一戦死	
三、一七	泰國ヲペルリスレ洲肅正討伐作戦中ヲアローポレ附近に於て矢四戦死	
五、二	馬來地区肅正討伐作戦中ヲセラングール州ヲクアラセラングールレ首標二十七哩附近に於て矢一戦死	
五、一三	馬來地区肅正討伐作戦中ヲジヨホール州ヲセガマツトレ附近に於て下士官一戦死	
五、二	馬來ヲマラツカレ州ヲアルアレ諸島附近に於て敵潜水艦を攻撃交戦中砲臺を喰ハシ三戦死	
四、一六	馬來ヲパハン州ヲオマンレ島附近に於て敵機の攻撃を受け矢一戦死	
五、二八	馬來ヲジヨホール州ヲムアレ郡ヲバゴレ東北方約五哩附近に於て、矢一名	

(2/2)

1858

年月日	概
四〇、六七	戦死 馬來地区肅正討伐作戦中、コジヨホール州、コバトパハレ東北方約入哩附近に於て受傷、コクルマンレ野戦病院に入院加療中、戦傷死、矢一
六八	コバンカレ海峡北口へ東経百四度五十六分、南緯二度附近に於て作戦輸送中敵の攻撃を受け、矢一戦死
六一四	馬來地区肅正討伐作戦中、コセラングール州、コバトアランレ附近に於て矢一戦死
六三一	馬來、コセラングール州、コウルセラングールレ郡、コセレンダレ北方ニ哩附近に於て匪賊の襲撃を受け、下士官一戦死
七、三一	馬來、コセラングール州、コクランレ東方十哩附近に於て匪賊の襲撃を受け、矢一戦死
八一四	終戦
八一〇	馬來、コネグリセンビランレ州、コポートデクソンレ北方、コタナメラレ附近に於て匪賊と交戦中、矢一戦死
八一九	馬來地区肅正討伐作戦中、コセラングール州、コラサレ附近に於て持銃一、矢一戦死
八二九	馬來、コペラレ州、コタンジヨムマリムレ附近に於て要務行動中、矢一生死不明

九、一

馬來マラツカレ州アロガジャレ附近に於て警戒勤務中匪賊の狙撃を受け矢

一戦死

九、三

馬來マラツカレ州アロガジャレ馬來人小学校に収容中、兵一逃亡

歴代部隊長名

中佐 羽生 善良

部隊事情精通者

新潟県高田市東本町三丁目二九七

陸軍大尉 町田 正次

富山県東砺波郡太田村太田四二四八

陸軍中尉 五十嵐 哲男

静岡県志太郡島田町六丁目

陸軍准尉 橋本 正吉

岩手県和賀郡沢内村川舟三九地割百貳番地

陸軍曹長 高橋 保次郎

歩兵カニ百五十七聯隊部隊略歴

聯隊長 乙守文策

年月日	概	要
昭一、九、一〇、二四	編成下令	
一、一、一五	<p>泰國「フーケツト」州「トラン」に於て編成完結 聯隊本部及直轄中隊は「トラン」 カ一大隊は「メルギー」 カニ大隊は「フーケツト」 カニ大隊は「ケダ」州「アロールスター」 に在り、各々同地附近の防衛に從事</p>	
一、三、一	<p>「ビルマ」国「メルギー」 「レニヤ」河附近の対空戦斗に於て将校一戦死</p>	
一、三、三五	<p>カニ大隊泰國「ハジャヤ」に移駐</p>	
二、三、三三	<p>「ビルマ」国「メルギー」附近海上に於て潜水艦浮上砲撃により将校一、下士官八名戦死</p>	
三、一、一五	<p>カニ大隊泰國「ホワイヨード」に移駐</p>	
四、九	<p>「ビルマ」国「メルギー」 「キセライン」島附近に於て敵機の数銃掃射を受け突一戦死</p>	
五、一〇	<p>「ビルマ」国「メルギー」市の空襲を受け下士官一戦死</p>	

六二〇	コビルマレ回コメルギーレ附近防衛のオ一大隊は義軍の隷下に転出 独立歩兵オ二百六十四大隊新井火佐以下四五〇名は歩兵オ二百五十七聯隊に転 入
七、九	オ一大隊を編成泰回コゲタレ州コスンゲイトパアンレに在り、同地附近の防衛 に従事す
七、二	後駐の為南泰回出発ヘオニ大隊は泰回コケツト島に在り依然任務を続行す コマライレコゲタレ州コスンゲイトパアンレに後駐、同地附近の防衛に従事 す
七、三	泰回コフリーケツトレ州コライタルレ島附近に於て敵機銃上掃射を受け、共一戦 死
八、四	終戦 歴代部隊長名 大佐 乙 守 文 策 部隊事情精通者 宮崎県都城市八幡町三八四七のイ号 陸軍大佐 乙 守 文 策 新泻県中頸城郡三郷村大字稻塚 陸軍大尉 高 橋 弘 吉

マシイ五六内

年月日	概要
	<p>東京都荏原区平塚町二ノ六四五 陸軍大尉 佐野孝治</p> <p>本島泉安佐郡森井村一三四番屋敷 陸軍大尉 今井博</p> <p>福井県足羽郡麻生村字生野三ノ三〇 陸軍中尉 増永 総</p> <p>東京都中野区大和町三八〇 陸軍中尉 江原良二</p>

(222)

1863

歩兵才二百五十八師部隊略歴

師隊長 山本 勇

年月日	概	要
昭一九、二、二五	編成完結	
二〇、三、一一	部隊主力は泰国領「チユンホン」及「スラトタニ」泉地区警備 一部「ラノン」泉及緬甸領「ビクトリヤポイント」地区の警備	
四一六	「チユンホン」爆撃の際 兵一戦死 分遣先よりの帰途、馬來「チオマン」島西方面海上に於て敵機の攻撃を受け兵 三生死不明（死亡確認）	
六、八	「ジヤバ」に於ける集合教育の帰途「バンカ」海峡北口附近に於て敵潛の攻撃 を受け兵一戦死	
六、一六	泰国「バンドン」河口「チエツト」岬北西海上に於て敵機の攻撃を受け兵一戦 死	
八、一四	終戦 部隊主力は「チユンホン」地区 カ九中隊は「スラトタニ」地区 カ二大隊は「ハジヤイレ」地区 カ三大隊は「ビルマ・ビクトリヤポイント」地区	

(223)

1864

年月日	
概要	<p>の終戦業務を終了し、オニ大隊(一中欠)をコビクトリヤポイントに残置し、北部「マライ」に於て別紙の如く勤労隊を編成し英軍作業を援助せしむ</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>大佐 山本 勇</p> <p>部隊事情精通者</p> <p>東京都麻生区新籠土町六番地</p> <p>陸軍大尉 岩田 栄一</p> <p>静岡県榛原郡勝間田村静谷一〇四</p> <p>陸軍准尉 川嶋 正次</p>

要

1481

(22)

1865

マライヨセ

野砲兵第九十四聯隊部隊略歴

山澄邦太郎

年月日	概	要
昭十九、一四 一一五	昭和十九年度軍令陸甲オ一三八号並に陸軍機密オ六五号に依り編成下令 泰國「チヌンポン」 「クラ」地峽に於て編成完結 聯隊主力行動	
自一九二二、一五 至一九二二、三一	泰國「チヌンポン」 「クラ」地峽に在りて教育訓練並に「マライ」頭部防衛勤務に從事 (オ二大隊 オ一、八中隊欠)	
自二〇、一、一 至二〇、五、一八	「マライ」 「ダンジョンマリム」に有りて教訓練並に「マライ」頭部防衛勤務に從事 (オ三、三大隊 オ一、八中隊欠)	
自二〇、五、一 至二〇、六、一七	移駐のため輸送業務	
自二〇、六、一八 至二〇、七、一三	(オ三大隊 オ一、八中隊欠) 「マライ」 「チダ」州「アロルスター」に於て「マライ」北部防衛勤務に從事 (オ三大隊 (オ七中隊欠) オ八中隊欠)	

(225)

1866

年月日	概	要
自昭三〇、七、二四 至 八、二四	<p>「マライ」州「ケダレ」州「グルン」に在りて「マライ」北部防衛勤務に従事</p> <p>オニ大隊行動</p>	
一九、二、一五 自一九、二、一五 至二〇、五、一〇	<p>南部管区司令官（オ九十四坂兵团長）の指揮下に入る</p> <p>「マライ」州「ペラ」州「タンジョンマリム」に在りて教育訓練並に「マライ」半島防衛勤務に従事</p> <p>原州属復帰</p> <p>オニ大隊行動</p>	
二〇、二、一 自二〇、二、一 至 六、一	<p>北部管区司令官（オ九十四師団長）直轄</p> <p>泰回「クンポン」地方「クラー」地峡に在りて「マライ」領部防衛勤務に従事</p> <p>（オハ中隊欠）</p>	
自二〇、六、八 至 八、二四	<p>歩兵オ二百五十八師団長の指揮下に入り前在務続行</p> <p>（オ七、ハ中隊欠）</p>	
一九、二、一五 自一九、二、一五 至二〇、八、二四	<p>オ一中隊行動</p> <p>歩兵オ二百五十七師団オニ大隊長の指揮下に入る</p> <p>泰回「フォーケット」島に在りて防衛勤務に従事</p>	

マライ 五七六

一九二二、二五
自一九二二、二五
至二〇、八、二四

カハ中隊行動

歩兵カ二百五十八聯隊カ二大隊長の指揮下に入る

緬甸「ヴィクトリアポイント」に在りて防衛勤務に従事

終戦に伴う緊急入事処理に依る異動

歩兵カ二百五十八聯隊カ二大隊長の指揮下に在りシカハ中隊（緬甸「ヴィク

トリヤポイント」に在）は緬甸派遣軍（部隊名不詳）に転属せしめらる

高射砲カ百二聯隊カ二中隊

同 カ百四聯隊カ六中隊 転入

歴代部隊長名

陸軍大佐 山澄 邦太郎

部隊事情精通者

本籍地 山口県厚狭郡方倉村大字西方倉一七八五

現住所 福岡県若松市針屋町一〇二

カ一大隊長 現火佐 今村 浩

現住所 静岡県浜松市常盤町一九一

カ三大隊長 現火佐 坂 直俊

本籍地 神奈川県駿甲郡玉川村七沢一ニ〇三

年月日	概要
	<p>現住所 山梨県南巨摩郡増穂村 本籍地 東京都芝区新宿町二ノ六 本籍地 大阪府大阪市西沢川区江北一ノ五六 本籍地 北海道札幌市北七条西三丁目二 現住所 埼玉県所沢町三五〇</p> <p>カ二大隊長 豫大尉 室田 準 聯隊副官 豫大尉 小川 順 カ八中隊長 豫中尉 佐久間 義純 カ一中隊長 豫中尉 堂垣 武憲</p> <p>死没者並に逃亡者別紙カ一、二の如し 持枚職員表並に人名簽別紙カ三及別冊の如し</p>

6031

(228)

1869

マライニハダ

第九十四師団工兵第九十四連隊部隊略歴

陸軍大尉 浜崎 剛

年月日	概要
昭一五、一〇、二五 一、二五	軍令陸甲オ一三八号並陸五檢察オ六〇五号に依り編成下令 編成完結
自一五、二、二五 至二〇、三、八	編成地 北部馬來「アロスター」 將校職員表別表オ一の如し 「アロルスター」に於ける部隊行動左の如し 一、 人員の受領編成並に器(資)材、車輛の整備 二、 初年兵オ一期教育実施(二月二七日検閲終了) 三、 馬來半島頸部防衛 四、 本期間に於ける人員損耗 戦病死兵 四名 連隊主力、萊國「チヌンホ」に移駐
自二〇、三、九 至二〇、六、三五	「チヌンホ」附近に於ける部隊行動左の如し 一、 「チヌンホ」附近道路補修並に架橋作業 二、 オ二期教育実施 三、 「ク」上街道道路偵察

要

年月日		概要
昭二〇、三、九 二二、三、二〇 二〇、六、二六 自二〇、六、二六 至二〇、八、一三		<p>4. 7コオラオームに飛行場整地作業</p> <p>5. 馬来半島頸部防衛</p> <p>6. 本期間に於ける人員損耗 戦病死下士官一 兵一一名 連合軍B隊の空爆を受け、行方不明下士官一（陸軍少校軍曹高知尾義満） 死亡認定す</p> <p>連隊主力北馬来7グレンドに転進</p> <p>戦連並に7グレンド附近行動左の如し</p> <p>7. 部隊全員に対し爆薬の取扱法並に戦車肉攻訓並</p> <p>8. 陣地構築並に築成材料収集の整備</p> <p>3. 道路偵察並に橋梁破壊計画立案</p> <p>4. 馬来半島頸部防衛</p> <p>5. 本期間に於ける人員損耗 戦病死兵二名</p> <p>終戦</p> <p>終戦時に於ける将校職員表別表オニの如し</p> <p>三船司より将校以下一〇五名転入し、特設中隊を編成す</p> <p>同部隊人名表別紙オ三の如し</p>
二〇、八、一四		
二〇、八、二五		

二〇、一〇、三	部隊長陸軍中佐佐良照以下九名（別紙五回）英軍より出頭を命ぜられ「タイピ ン」に出向す
二二、二八	「リオリ」諸島「レンバン」島上陸
二六、五一、七	「レンパン」島出帆
五、二九	名古屋港上陸
五、三〇	復員完結
自二〇、八、一五 至二〇、三、三一	向に於ける人員損耗 兵六名 戦病死
	歴代部隊長名
	人 陸軍中佐 佐良 照
	之 部隊長代理 陸軍大尉 次崎 剛
	部隊事情精通者
	熊本市黒髪町下立田六〇六
	陸軍大尉 次崎 剛
	福島県耶麻郡山部村
	陸軍中尉 小沢 幸 年
	宮城県登米郡登米町九日町四八
	陸軍准尉 兼地 勝 雄

年月日	概	要
昭二〇、九二〇	福岡泉田川郡方城村字伴方	陸軍准尉 村上友巳
九二〇	其の他終戦後左記の如く矢逃亡セリ	
九二〇	左記	
九二〇	北部馬來「ビドン」ノ二中隊陸軍衛生一隊矢	岩崎哲夫
九二〇	△ 陸軍一隊矢	尾下正美
九二〇	△ △ 陸軍一隊矢	松下友一
九二〇	△ 「グレン」 特設中隊陸軍上等矢	北條菊雄
九二六	△ △ 陸軍一隊矢	小野寺初男
九二六	註 陸軍一隊矢	前田八郎
九二六	同 尾下正美	
二〇、一一一	死亡確認 松下友一	
二〇、一〇一	陸軍一隊矢 北條菊雄	
二〇、一〇一	帰隊	
二〇、八二五	終戦に伴い左記将校転入す	

(23)

1873

												前部隊	左記
												三船司	
	力二十九軍	力二十九軍										中尉	氏名
	〃	〃										尉	寺田英雄
	〃	〃										尉	菱田義一
	〃	〃										尉	田林豊次
	〃	〃										尉	山岸敬信
	〃	〃										尉	西村一夫
	〃	〃										尉	酒見恒夫
	〃	〃										尉	福島照
	〃	〃										尉	益井省吾
	〃	〃										尉	工藤富雄
	〃	〃										尉	田辺実
	〃	〃										尉	加藤一男
	〃	〃										尉	小龜栄
	〃	〃										尉	妹尾久保夫
	〃	〃										尉	力二十九軍
	〃	〃										尉	眞木孝磨
	〃	〃										尉	北村震三

輜重兵方九十四連隊部隊略歴

連隊長 松田正松

年月日	概
昭一九、一〇、三四	軍令陸甲オ一三八号に依り編成下令
一九、一五	泰国「チユンホン」に於て編成完結
自一九、二、一五 至二〇、七、三	泰国「チユンホン」に在りて馬來半島頸部防衛に従事
七、三	馬來転進のため「チユンホン」出發
七、一〇	泰、馬來回境通過
自七、一五 至八、一四	馬來「スンガイパタニール」に在りて馬來北部防衛に従事
八、一四	終戦
九、一	威烈入甲オ二六〇号に依り「チユンホン」残留小隊長南中尉以下三十六名隷下を脱し歩兵オ二五八連隊に転属す
九、一	兵一名「スンガイパタニール」に於て逃亡生死不明となる
一〇、一	「スンガイパタニール」飛行場に集結
一〇、三四	威烈參編四号に依り独立輜重兵オ八十三中隊（同オ八十一、八十二中隊の一部を含む）を隷下に収む
二、一	「ジヨホール」州「レンガム」に移駐

昭一九、一五

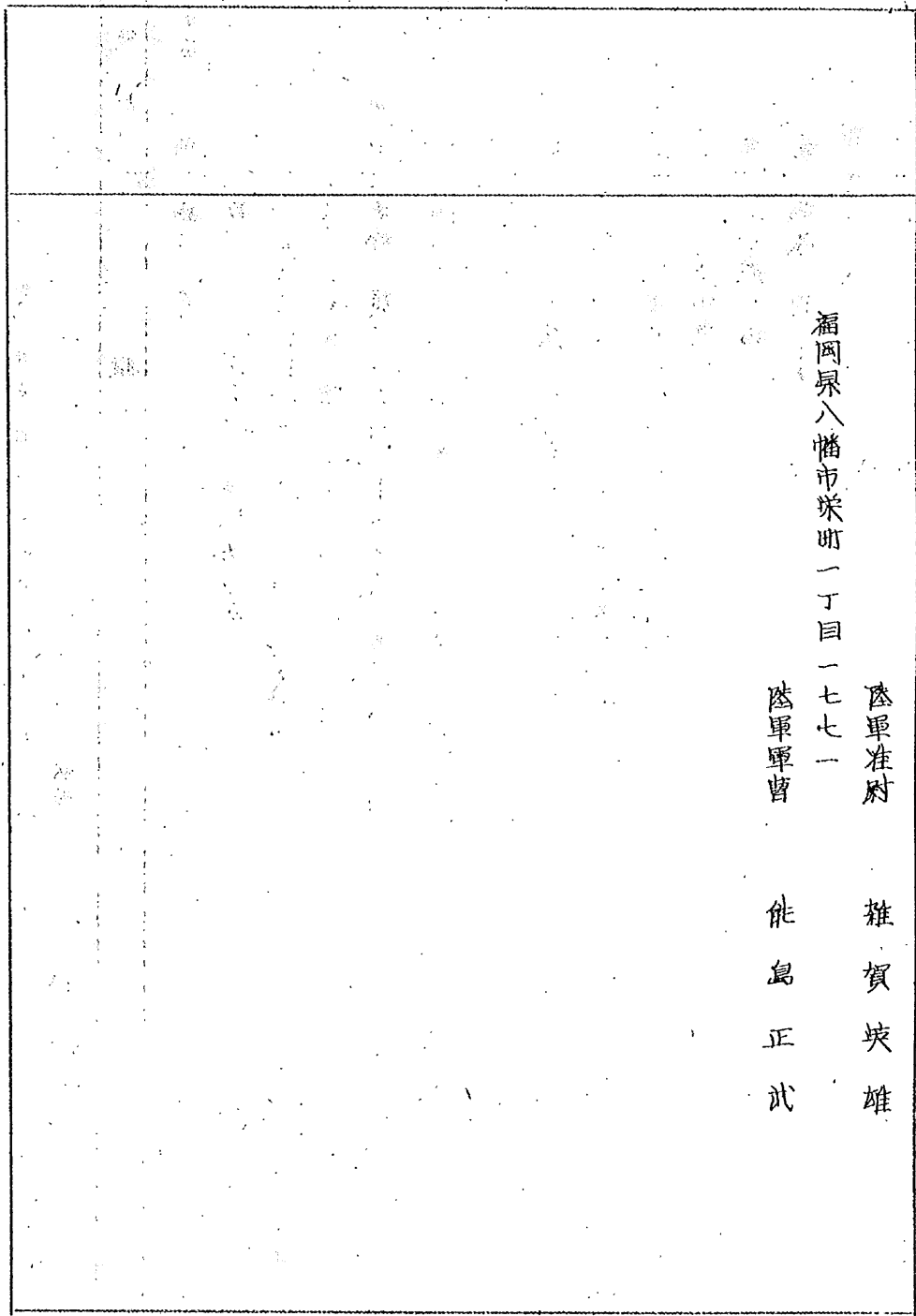
一、三〇	7レンパンレ島に移駐
自二〇、二二、一 至二六、五、一六	7レンパンレ島開拓に従事
五、一六	7レンパンレ島出發
五、二九	名古屋港到着並上陸
五、三〇	部隊
	部隊事情精通者
	東京都中野区昭和通二ノ二八
	陸軍大尉 中村文雄
	東京都世田谷区上北沢町三ノ一〇二〇
	陸軍大尉 森田収
	青森県青森市大字蛸貝町一、二九
	陸軍大尉 上藤鉄男
	東京都世田谷区池尻二一四
	陸軍大尉 本多誠
	添付書類
	将校以下連名録
	将校職員表

方九十四師団兵器勤務隊略歴

隊長代理 野間省五

年月日	概	要
昭一九、一〇、 一一	編成下令(軍令陸甲オ一三八号) 編成完結(於泰國「チエンホン」) 本後馬來半島頸部防衛	
二〇、八、 八	馬來に接陸 終戦	
一、 八	「リオ」群島「レンバン」島上陸 後員完結 歴代部隊長名 陸軍大尉 野間省五 (代理) 部隊事情精通者	
	鹿児島県鹿児島市吉野町一八九四 陸軍大尉 野間省五	
	埼玉県入向郡大東村大字豊田本一七九 陸軍技術准尉 小野沢正男	
	鳥取県西伯郡賀野村大字高姫一六九	

マシイ六〇外



福岡県八幡市栄町一丁目一七七一

陸軍准尉

陸軍軍曹

雑賀 英雄

能島 正武

0701

(237)

1878

才九十四師団才一野戦病院部隊略歴

病院長 大橋善弼

年月日	概
昭一、二、一四	編成下令
一、三、三	<p>編成 南方才八陸軍病院泰國「チウンホン」カオフアージに患者集合所 「ビルマ」国「メルギー」患者療養所要員及才百三十一矢站病院の七十九名 は「シヤム」国「チウンホン」に到着</p>
一〇、一、二	<p>基幹人員たる才百三十一矢站病院の八十二名は「カーニコバル」島出発</p>
自一、九、一〇、一七 至一〇、二、二四	<p>間「ナンコーリ」港に於て才一次対英機動戦斗に参加中、戦死才三名、負傷入 院才二名</p>
二、三、一、七	<p>一名は入院せるも戦病死</p>
一、九、一〇、一三	<p>一名は「ヌマトラ」南方才十陸軍病院に入院しありたるも、終戦後連絡不能 才一次緊急補充人員八十九名は内地補充隊に入隊（應召）</p>
二、六	<p>「川司港」出発</p>
一、二、九	<p>昭南港上陸</p>
一、三、一、五	<p>部隊に到着す</p>

マライ六〇内

一、二二	編成完結 (一、二二三名)
其の後 補充人員 五四名	
總合計 二八七名	
一、二一五	本隊は「泰國」ヲ「チユンホン」市に於て「九十四」師団「一」聯隊病院兩設患者収
療業務	
三〇、五	「泰國」ヲ「ラ」衛道十三料地点に後駐すと同時に
一、二一五	迄「チユンホン」市に「チユンホン」分室を設置、患者以療業務
自二〇、二一六 至二二、二二九	馬來「スンダ」パタニ「ド」於て英軍防務
自二二、二一〇 至二二、二一五	輸送業務
自二二、二一六 至二二、二二〇	馬來「コタバル」に於て 病院業務
三、二二三	馬來「スンダ」に後駐 病院業務
一〇、二〇	馬來「クワンタン」に後駐 病院業務
二、二一〇	馬來「クアラルンプール」に後駐 病院業務

(239)

1880

年月日	至自	批	要
自一九二〇、六、三〇 至一九二〇、六、三〇	自一九二〇、六、三〇 至一九二〇、六、三〇	「シヤム」国「カオプア」ジ「患者集合所」 病院業務	
自一九二〇、六、三〇 至一九二〇、六、三〇	自一九二〇、六、三〇 至一九二〇、六、三〇	「ビルマ」国「ベルギー」レ「患者療養所」 病院業務	
自一九二〇、五、三〇 至一九二〇、九、三〇	自一九二〇、五、三〇 至一九二〇、九、三〇	「シヤム」国「クラ」レ「街道二十七料」 「九十四師団」特設「マラリア」レ「患者療養所」 病院業務	
自一九二〇、三、一三 至一九二〇、五、一〇	自一九二〇、三、一三 至一九二〇、五、一〇	「ビルマ」国「ビクトリアポイント」レ 「築城並に自衛戦術訓練」 病院業務	
自一九二〇、三、一〇 至一九二〇、六、三〇	自一九二〇、三、一〇 至一九二〇、六、三〇	「ビルマ」国 「ビクトリアポイント」レ「患者療養所」 病院業務	
自一九二〇、七、三〇 至一九二〇、七、三〇	自一九二〇、七、三〇 至一九二〇、七、三〇	「シヤム」国 「ランスマン」レ「患者療養所」 病院業務	

0881

(240)

1881

自 三、一、一八	病院業務	コシヤム、回 コスラトダニレ患者療養所
三、一、四	病院業務	馬來「ビドール」(分遣) 「ビドール」患者療養所
三、六、五	病院業務	馬來「バンタレ」に移駐
一、三、一〇	病院業務	馬來「ラウブレ」に移駐
二、二、二〇	病院業務	馬來「クアラルンポール」本隊復帰
歴代部隊長	陸軍軍医大尉	嶋津 優
三〇、一〇、三三	部隊事情担当者	大橋 善 弼 (代理)
	陸軍軍医大尉	大橋 善 弼
	陸軍衛生准尉	吉田 定 雄

第九十四師団 野戦病院部隊略歴

病院長 加藤 謙

年月日	概
昭五、二、二五	コマライレ、コタイピンレに於て編成完結
二、二四	南泰に転進
二、二六	泰国コトランレに於て野戦病院開設
三、一、二七	補充要員輸送中 兵一名發病コマライレ、コスンゲイパタニレに於て入院 衝心性脚氣にて死亡す
七、六	コマライレに転進
七、八	コマライレ、コスンゲイパタニレに於て病院開設
三、一	コマライレ、コスンゲイパタニレ 日本人集結地に入る
三、二、六、八	下士官一、兵四名 重症脚氣兼急性食中毒にて死亡す
三、三、二四	将校一名、重症脚氣兼アメーバ性赤痢にて死亡す
歴代部隊長名	
陸軍軍医火佐 加藤 謙	
部隊事情精通者	
高根泉飯石郡志志村 今田実方	
陸軍軍医大尉 川崎 忠夫	

マ、一、一、一

鹿見島景熊毛郡西表町西表四六九

陸軍衛生中尉

田上義正

京都市東山区福船柿本町五番地

陸軍衛生准尉

泉津清三郎

(244)

1884

第九十四師田防渡給水部隊略歴

陸軍軍医大尉

川原俊男

年月日	概
昭一九、一〇、一四	軍令陸甲ア一三八号及陸亜機密カ六〇五号に依リカ九十四師田防渡給水部隊編成下令
二、一五	編成完結 尔後馬來半島頸部防衛
二〇、一、二三	後駐の爲馬來ヲスライレ出發 馬來、泰國境通過
一、三四	泰國ヲチユンホンレ着 尔後、泰國に在リテ馬來半島頸部防衛
七、九	後駐の爲泰國ヲチヌホンレ出發
七、一六	泰、馬來國境通過
七、一七	馬來ヲスンゲイバタニレ着
七、一八	臨時防渡班として馬來ヲアロールスタレ後駐
八、一四	尔後馬來に在リテ馬來半島頸部防衛
九、一七	終戦 馬來ヲバーリンレ後駐

要

二一八	馬來コレンガムレ後陸
二一七	馬來コシンガポール港出帆
二一六	コリオ諸島コレンバンレ島上陸
六一五	内地帰還の為コリオレ諸島コレンバンレ島出帆
六一六	名古屋港上陸
	復員完結
	歴代部隊長名
	一、陸軍軍医火佐
	久保田正助
	二、大尉
	川原俊男
	部隊事情精通者
	北海道留萌町南記念通二十四番地
	陸軍軍医中尉
	松本賢一
	愛知県愛知郡鳴海町大字平四九番地
	陸軍軍医中尉
	平岩甫

独立戦車方四十九大隊部隊略歴

大隊長 宮地辰巳

年月日

昭二〇、五一〇

自二〇、五一〇
至二〇、八一四

概

要

馬來ヲペラシ州ヲイポーレトテ編成完結

總人員 二七四名

馬來半島警備

歴代部隊長

火佐 宮地辰巳

部隊事情精通者

東京都比多摩郡多摩村常久

陸軍中尉 吉富正典

埼玉県児玉郡秋平村大字秋山一〇四八

陸軍准尉 福田源之助

東京都中野区本町通三ノ九

陸軍曹長 大久保直幸

独立無線ヲ四中队部隊略歴

中隊長 田口信夫

年月日	概	要
昭二〇、五、一〇	軍令陸甲ヲ 号に依リヲ二十九軍独立無線ヲ四中队の編成を命せられ「マライ」コパラ州「タイピン」に於て編成完結	
自二〇、五、一〇 至二〇、五、一五	マライ半島に於ける警備並にA、B、C防衛通信に任ず 昭南南方軍ヲ三通信隊に於て被教育中の岩田中尉以下七九名到着す 尔後現任務を続行すると共に補備教育並に「タイピン」西方八料「シンパン」に於ける施設分散工事を実施す	
七、四	施設分散工事完結と共に「タイピン」西方八料「シンパン」に後駐 前任務を続行す	
八一五	終戦に伴う南部レンパン島移駐準備に任ず	
自二〇、八、一五 至二〇、八、二五	終戦に伴い離島方面通信所長篠崎中尉以下五〇名(ナンコーリ十一名、カーニコバル九名、アングダマン十六名、メダン八名、コタラジヤ六名)独立混成隊三十五旅団司令部並に三十六、三十七旅団、カ二十五軍司令部に転属す 教育分遣中の陸軍幹部候補生岩沢慶治「仏印」ジュロンに南方軍通信教育隊に転	

年月日	概 要
昭二、九、一五	橋す オ二十九軍オ三通信隊の指揮下に入りしめられコペラ州コサラクノースレ曰 木入収容所に移駐す
六、二八	連合軍側の指示に基く作業隊並通信所要員として斎藤中尉以下五十四名「タイ ピン」に分遣
一、二七	連合軍の指示に依る作業隊員として山本剛一兵長以下五名「クアラカンサール」 作業隊に分遣
一、二九	「ジヨホール」州「レンガム」収容所移駐、先総設営のため木谷中尉以下十一 名出發す
一、三三	連合軍側の指示に基く通信所員並に残留作業隊員石岡曹長以下四十名（三通勤 務中の斎藤、小林を含まず）を残置し、「ジヨホール」州「レンガム」に後駐 を開始す
一、三五	「ジヨホール」州「レンガム」収容所に到着
	同日「イポ」通信所に分遣の上垣軍曹以下五名並に馬來河総隊勤務たりし小 野一等兵（成田一等兵は「クアララン」州に輸送司令部に残留）復歸す
一、三一	後駐開始のため、山口兵長、遠藤一等兵、南方オ三陸軍病院に入院、転属せし む

マライ半島

一三二六

馬來亞南港出帆

同日南都レンパン島千島港上陸

一三二七

馬來南部レンパン島に於ける復員準備並肉拓作業に在す

一三二八

馬來「ジヨホル」州「レンガム」南方カ三陸軍病院入院転属中の山口伍長復
帰を命せられ着隊す

一三一

入院転属中の遠藤上等兵復歸到着す

歴代部隊長名

陸軍大尉 田口信夫

部隊事情精通者

埼玉県熊谷市大字代一四七九ノ三

陸軍大尉 岩田象男

島根県出雲市今市町

陸軍曹長 荒木知介

山口県厚狭郡厚狭町大字郡四〇七二

陸軍伍長 石谷信義

(251)

1890

オ四十六師団司令部部隊略歴

師団長 国分新七郎

年月日

概

要

<p>昭一八二一 一一〇</p>	<p>軍司令陸甲オ九号に依りオ四十六師団編成着手 編成完結</p>
<p>一九一、二三 自一九、三三一</p>	<p>濠北派遣の島門司出発 作業輸送 南緯七度二十六分、東經百十五度五十八分、ウカンゲアン列島「セパンジヤン」 島南三十度東十六度附近に於て敵の魚雷攻撃を喰く（輸送船曰南丸） 下士官ニ、矢三、戦死す 「スンバウレ島」に上陸</p>
<p>一九四、一 自一九、四、一 至二〇、三、二</p>	<p>濠北地区防衛作戦 「コンソリーデーデット」にボス十一機が「スンバウレ島」に爆撃に依り 准士官一、矢一、戦死す</p>
<p>二〇、二 自二〇、三、二 至二〇、四、七</p>	<p>緊急作命甲オ二百九十四号に依り「スンバウレ島」より転進 作戦輸送</p>

(22)

1891

三二	飛行機事故に依リ「マツラ」海峡に於て将校一、公務死
四七	「スンバワ」レ「ビマ」北々西五十八哩沖附近に於て敵の魚雷攻撃を受け「巡洋艦五十鈴」レ「将校一、兵八」戦死認定
四一八	昭南上陸
五三	昭南一陸軍病院に入院中 マラリアに依り戦病死兵一
四二六	「タイピン」レ陸軍病院にて戦病死将校一
至四一八	南部馬來警備
九一	終戦
一〇一六	馬來「ジヨホル」州「レンガム」に於て喪死兵一
二一三〇	「レンパン」島上陸
二一七二	鹿見島上陸

1892